

令和6年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格：教授

氏名：森丘 保典

<p>研究課題名</p>	<p>競技スポーツのコーチング実践における量的・質的情報の効果的な収集・分析および活用方法に関する研究</p>
<p>研究目的及び研究概要</p>	<p>コーチング現場に無数に存在する断片的な情報（インフォメーション）を、コーチングにおける判断や行動に対して何らかの指針や方向性を与えてくれる情報（インテリジェンス）へと昇華させるためには、明確な目的意識を持った情報（データ）の収集と蓄積、そして目標の達成に向けた分析が必要となる。</p> <p>そこで本研究では、国内一流競技者の競技パフォーマンスの変遷について量的研究方法を用いて明らかにするとともに、彼らの育成・強化プロセスについて質的研究法を用いて把握することにより、ジュニア競技者に対する望ましいトレーニングやコーチングのあり方や育成・強化システムのあり方について、総合的に検討するためのエビデンスを提示することを目的とする。</p> <p>①各種競技会において映像情報を中心とするパフォーマンス分析を行い、量的・客観的情報（データ）を収集・分析する。</p> <p>②競技者のスポーツ歴（競技ヒストリー）について、半構造化面接法などを用いたインタビュー調査を行い、質的・主観的情報（データ）を収集・分析する。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>①各種競技会における日本トップレベルの選手のレースパターン分析を行い、その傾向を明らかにするとともに、選手やコーチにデータをフィードバックすることによって、トレーニングやコーチング実践に活かすことができた。</p> <p>②競技者のスポーツ歴（競技ヒストリー）については、日本および世界一流競技者におけるジュニア期からシニア期かけての競技パフォーマンスの変遷や、若年期のアスリート育成に関する国内外の動向について検討し、今後の具体的な施策に資する基礎資料を公表することができた。</p> <p>今後は、インタビュー調査などを実施しながら、育成・強化システム（モデル）構築に向けた情報を収集・分析することが課題となる。</p> <p>・論文①：A. Hoshikawa, K. Nakajima, T. Okuwaki, M. Hangai, H. Aono, S. Ishizuka, Y. Morioka, S. Ito, T. Kawahara 「Former Olympians had remained on high bone mineral density for a long period: Consecutive checkup of the 1964 Tokyo Olympic Japanese contestants for over 50 years」 Bone 187 117203-117203 2024年10月</p> <p>・著書①（共著）：諸外国から学ぶセーフスポーツ：安心・安全なスポーツ環境の構築に向けて（第4章3項「日本陸上競技連盟（JAAF）の取り組み」を執筆）、日本スポーツ協会、44～45ページ、2025年3月27日。</p> <p>・学会発表①（基調講演）：森丘保典「根拠に基づく実践に向けた研究のあり方について—「還元」主義から「関連」主義へ—」日本陸上競技学会第23回大会、2025年2月22日、仙台大学</p> <p>・学会発表②（一般発表）：石塚真海、森丘保典「陸上競技男子4×400mリレー強豪国と日本との比較—400走年次別記録の推移などに着目して—」日本陸上競技学会第23回大会、2025年2月23日、仙台大学</p> <p>・学会発表③（一般発表）：近藤克之、森丘保典、尾縣貢「競技のための「伴走」から「伴走」を通した学びの展開に関する検討—東京都H市立Y 中学校における実践を通して—」日本陸上競技学会第23回大会、2025年2月22日、仙台大学</p> <p>報告書①：柴山一仁、遠藤俊典、森丘保典、宮代賢治「短距離・ハードル種目におけるリザルトスコアとプレイングスコアとの関係」日本陸上競技連盟・陸上競技研究紀要、第20巻、2025年3月【印刷中】</p> <p>報告書②：柴山一仁、貴嶋孝太、杉本和那美、森丘保典「2024年シーズンにおける男子110mハードル走のレース分析」日本陸上競技連盟・陸上競技研究紀要、第20巻、2025年3月【印刷中】</p> <p>報告書③：貴嶋孝太、青木光、柴山一仁、杉本和那美、森丘保典「2024年シーズンにおける国内外一流女子100mハードルのレース分析結果」日本陸上競技連盟・陸上競技研究紀要、第20巻、2025年3月【印刷中】</p> <p>報告書④：杉本和那美、森丘保典、貴嶋孝太、柴山一仁「2024年シーズンにおける男女400mハードル走のレース分析」日本陸上競技連盟・陸上競技研究紀要、第20巻、2025年3月【印刷中】</p>